



アクティブ・ラーナー育成を目指すFDer養成の取組

県立広島大学 AP事業推進部会

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

発表者：馬本 勉(総合教育センター) 川口 博之、伊藤 俊(本部経営企画室)

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム



1. 県立広島大学のAP事業

◆ 県立広島大学の教育的課題

- 「授業の満足度は高いが、授業外学修時間が伸びない」(※学内調査より)
- ⇒ 学生の主体的学び(の姿勢)を引き出せない

◆ 平成26年度AP事業 テーマI (アクティブ・ラーニング) 採択

- 行動型学修・参加型学修を軸とする「県大型アクティブ・ラーニング(CLAL)」を推進
- 導入の目安：90分授業で20分相当の行動型・参加型学修(学期中の合計300分以上)
- ファカルティ・ディベロッパー(FDer)を養成 [対象：各学科・総合教育センター教員]
- AL手法の積極的導入、組織的授業改善をリード

⇒ 生涯学び続ける自律的な学修者(アクティブ・ラーナー:ALer)の育成へ

大学等名：県立広島大学
テーマ：テーマI (アクティブ・ラーニング)

加担概要 地域連携を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を高め、深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学生課程教育に計画的に導入し、教育改善を進めるための取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたって学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。

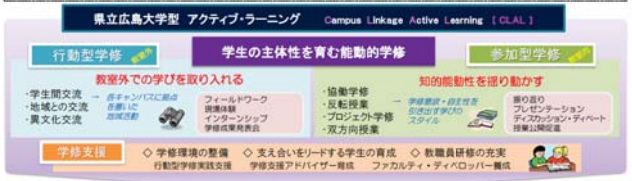


Table with 4 columns: 目標 (Goals), 達成率 (達成率) (Achievement Rate), 達成率 (実績率) (Achievement Rate), 目標達成率 (目標達成率) (Target Achievement Rate). Rows include CLAL implementation, FDer training, and student support.

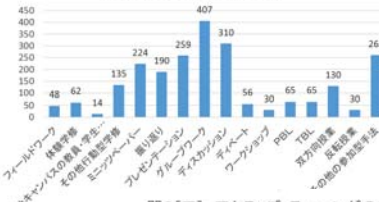
2. AL推進と見えてきたもの

◆ 平成28年度AL導入率...増加！！

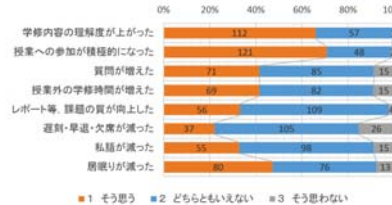
回答科目中:

H27 72.3% ⇒ H28 **74.8%**
(823科目中、595科目で導入) (888科目中、664科目で導入)

問2 導入手法(複数回答)



問2[A] アクティブ・ラーニングの効果



◆ グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に導入が進む

- 導入による効果：授業への参加度、理解度の向上
- 導入が困難な理由：説明時間が減る、クラスサイズが大きすぎる



◆ より効果的なAL推進の必要性

- AL導入・実践 → フェーズ移行 → 質的充実、点検・改善、波及
- 「支え合い・学び合い」の仕組みづくりの加速

【課題】FDerの成長が急務

◎ FDerの成長を促す(H29年度)

- 役割の明確化・分担
- ルーブリックによる自己評価
⇒ 年度内に「実践力」へ
- 授業ピアレビューの促進
⇒ 「授業参観シート」を用いた相互評価
- 実践の積極的な発信
⇒ 波及のための全学FD(ポスターセッション)

3. FDer養成の取組(H29)

Table with 4 columns: 時期 (Period), 会場 (Venue), 平成29年度の取組・研修内容 (Activities/Training Content), 養成する資質・能力 (Qualities/Capabilities to be cultivated). Rows include FDer self-evaluation rubric development, training sessions, and peer reviews.

【1】ルーブリックによる自己評価

◆ FDer/ALerとしての到達度を示した「自己評価ルーブリック」を作成

FDer自己評価ルーブリック(案)

Table with 3 columns: A. 実践力 (Practicality), B. 応用力 (Adaptability), C. 基礎力 (Basic Skills). Rows include: 1. 継続的改善 (Continuous Improvement), 2. AL実践と普及 (AL Practice and Dissemination), 3. 学修成果の発信 (Dissemination of Learning Outcomes), 4. 学修支援アドバイザーの役割 (Role of Learning Support Advisor).

ALer自己評価ルーブリック(案)

Table with 3 columns: A. 実践力 (Practicality), B. 応用力 (Adaptability), C. 基礎力 (Basic Skills). Rows include: 1. 学修・方法 (Learning/Methods), 2. 知識・応用 (Knowledge/Application), 3. 思考力・判断力・表現力 (Thinking/Decision-making/Expression), 4. 主体性・協働性 (Proactivity/Collaboration), 5. 自律・意欲 (Autonomy/Motivation), 6. 共通・協働 (Commonality/Collaboration).

※ピアレビューの流れ

- ① 授業参観シート中の各観点に基づき、授業を観察
- ② 参観結果を授業者へフィードバックし、授業改善について意見交換。

【3】実践の積極的な発信(ポスターセッション)

- ◆ 平成29年度第3回FDer養成講座(H29.9.14)
- ◆ 39名のFDerが計42件の授業実践事例等を発表



FDer(ファカルティ・ディベロッパー)

Table with 2 columns: 定義 (Definition), 役割 (Role), 選任方法 (Appointment Method), 期待 (Expectations), 課題 (Issues). Rows describe the role of FDer in supporting AL and the challenges they face.

【2】授業ピアレビュー促進

Table with 4 columns: 授業者 (Teacher), 観覧者 (Observer), 観覧時間 (Observation Time), 観覧場所 (Observation Location). Rows show the schedule for peer review sessions.

- ◆ 31名のFDerが60授業を公開
- ◆ FDer延べ47人が授業を参観(いずれも前期成果)

4. 成果と課題

- 成果
 - ピアレビューや高校授業見学を通じた、授業改善意識の向上
 - FDer間の対話を通じた「支え合い・学び合い」の意欲醸成

- 課題
 - 他者の授業を見る目、コメント力の向上
 - ルーブリックの運用本格化 ⇒ FDer/ALerとしての成長を可視化

FDerの成長

ALerの育成へ！！